

【特別公演・アンデス黄金郷 クントウル・ワシ遺跡】

ペルー北部の都市カハマルカは、標高2750M。インカ帝国最後の皇帝であるアタワルパ皇帝がこの地で幽閉され最期を迎えた。ここからさらに奥地へと進みカハマルカ州サン・パブロ郡に「クントウル・ワシ遺跡」がある。

紀元前に栄えたブレインカ期のクントウル・ワシ遺跡からは、アンデス文明最古の黄金の品々が発掘され、謎に満ちた古代文明を解明していく礎となった。世紀の発掘は、大貫良夫教授が率いる東京大学古代アンデス文明調査団が、1988年以來発掘調査を続けてきたことによる成果だったが、中でも石刻や黄金の出土品は、古代アンデス文明の高い黄金加工技術と優れた美意識を今に伝え、見る人を大いに感動させる。

ここで改めて注目したいことがある。遺跡の発掘というのは、調査団だけで行えるものではなく現地暮らし人々や、中央政府・地方政府

の大きな理解と援助が必要となる。特に地元住民の協力なしには難しい。しかし出土品が現地に戻元されるケースはこれまでなかったのだ。そこで東大の調査団は、この地に博物館を作り、地元民が自ら文化遺産を保護管理できるよう働きかけ、1994年に「クントウル・ワシ博物館」が完成した。

現在ペルー北部は、歴史的な遺跡がある観光地として新たに注目を集めている。観光立国であるペルーも力を入れて海外にプロモーションを行っている。中でも「クントウル・ワシ遺跡」は、ペルーの古代文明を知るだけでなく、日本人とペルー人が共に手を携えて発掘研究してきた歴史を知ることができる場所だ。

本特別講演では、古代アンデス文明の第一人者である大貫良夫教授を迎え、ペルーにある黄金郷クントウル・ワシ遺跡と発掘の歴史、そしてペルーの人や文化の魅力が語られる。

【講演者：大貫良夫(おおぬき よしお)】



- 1937年6月17日東京都出身
- 文化人類学者
東京大学教養学部名誉教授
- 埼玉県ペルー友好協会顧問

東京大学教養学部文化人類学科卒業。東大教養学部助教授、総合文化研究科教授。

1998年に定年退官後は、野外民族博物館リトルワールド(愛知県犬山市)館長。

ラテンアメリカ古代文明の第一人者であり、ペルーの紀元前アンデス文明の神殿、クントウル・ワシ神殿発掘に携わった。専門はアンデス考古学。コトシュ遺跡、クントウル・ワシ遺跡などから得られたデータを基に古代アンデス文明の形成過程を研究している。

【ペルー音楽・出演アーティスト】

カルパンディーナ: Kallpandinaは、ペルー出身のホルヘとアントニオの兄弟デュオ。日本人に馴染みのあるアンデス音楽を中心に演奏を行っている。歌いながらいくつもペルーの伝統楽器を演奏するステージは、とても二人とは思えない迫力がある。カルパンディーナとは、ケチュア語で「アンデスの力」。彼らが届ける音楽はどこまでもエネルギーで、そして青く澄んだアンデスの空を連想させる独特のメロディー。いつのまにか手をたたき踊りたくなるステージを堪能できるだろう。

★カルパンディーナ HP

<http://www.kallpandina.com/index.html>



<お申込み書>

※必要事項をご記入の上、FAXにてお申込みください。

フリガナ	
御名前	
御住所	
御電話番号	
備考	



※複数でお申込みの場合は、備考欄に合計人数とお申込み者様全員のお名前をご記入ください。

<お申込み先> 清水園 ■TEL:048-643-1234 ■FAX:048-645-4321 ■E-mail:laforet@shimizuen.co.jp



Asociación de Amistad
Saitama Perú
埼玉県ペルー友好協会

埼玉県ペルー友好協会

〒330-0852 埼玉県さいたま市大宮区大成町1-101-1F

【TEL】048-699-0156 【FAX】048-607-5754 【Web】<http://saitama-peru.jp>

【facebook】<https://www.facebook.com/saitamaken.peru/>